

『されど、我がふるさと』言の葉編』

田原市神戸町 坂場 茂美

プロローグ

尊敬する、松浦先生、お元気ですか。

先生が描かれたふるさとの風景、人、ものがたりの絵は、町のそこかしこで、今も静かに私たちを見つけてくれています。

先生がふるさとの山河と人たちに注がれた温かなまなざしを、私も、ほんのひとかけら、もつことができたらと、思う日々です。

先生のように絵を描くことができない私ですが、ペンと紙と言葉で、私を育ててくれた小さな町「たはら」のことを描きたいと思います。先生がくださった画集「されど、我がふるさと」に倣って。

春に詠む く川沿いの散歩道にてく

ベビーカー、愛犬、夫婦、車椅子 あなたと来たい 桜トンネル

夏に詠む く海にてく

幼き日 泳いだ海に足浸す 遊泳禁止の文字眺めつつ

秋に詠む く菊花大会にてく

大輪の菊花を育てし横顔の 幾重の皺は 花びらの曲線

冬に詠む く懐かしい瞬間く

自転車を立ちこぐ頬に からっ風 スカート舞い上がる 成章坂

先生、ふしぎですね、生まれ育った町というのは。ただ、なんとなく、大切に、いとおしく感じるものなのです。

なんだか、ちょっと恥ずかしいけれど、ふるさとを描く言の葉を、これから、少しずつつけていこうと思います。

だから、エピローグは、もっと先に。